

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400175		
法人名	有限会社 介護サービス朋友		
事業所名	ほうゆう・和の家		
所在地	日田市上城内町4-12		
自己評価作成日	令和元年8月17日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490400175-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail 2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490400175-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和元年 9月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい居住環境は地元の木材をふんだんに使い、高い天井からは柔らかな日差しが差し込み、明るく暖かな雰囲気があります。オープンキッチンからは、心地よい音と臭いで利用者様の五感を刺激し、自然にお手伝いの手が伸びて、スタッフと一緒に生活するスタイルが見られます。また小学校がすぐ隣という立地条件にあり、登下校に子供たちと触れ合い、行事の応援をする微笑ましい姿が見られます。スタッフの個性に富んだレクリエーションや行事、イベントの企画で、ご家族様や地域の方のお手伝いを頂いて、一緒に日々楽しい時間を過ごしています。午後の個別ケアは、「好きな事」尊重し、必要なことも取り入れています。さらに「お願い事叶えます」の取り組みでもケアプランと連動させています。可能な限り地域の行事や公民館活動に参加して頂き、持てる力を発揮できるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、定員9名のホームで、小規模多機能ホームが併設されており、利用者にとって通って来られる友人・知人との交流が楽しみになっています。開設3年目のホームでは、理念をもとに全職員で作り上げると意識を統一し、管理者とともに切磋琢磨しています。終末期に関しても無理のないケアにより、最期のステージまで関わりたいと意欲的に臨み、日々の利用者の些細な変化を見逃さないよう観察力や気付きを持ってケアに当たっています。職員の出勤を居室の窓から手を振って迎える利用者の風景に、職員と心の通った関係性が見受けられました。利用者の日常は近所にある図書館・公民館を利用した趣味の継続を支援しており、レクリエーションの時に利用者の前で発表することが生き甲斐になっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどできていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を唱和する事で、理念を意識したケアができるように努めている。理念を実践するにあたり、ミーティングでは「望ましい職員像」やよい考えを読み上げ、スタッフ皆で確認している。	理念をレクリエーションの時に全員で唱和しています。利用者の中には一緒に唱和する方もおり、日々のケアのより所となっています。課題に直面した時は、理念に立ち返り解決策を考えることで、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、公民館活動への参加や、子供会活動に協力している。近隣住民とは差し入れを頂いたり、事業所のイベントに招待したりしながら、交流の場を持てるようにしている。	地区の運動会の見学、小学校の廃品回収の協力、「遊学館寿考事業」の情報を収集し、可能な行事には利用者の参加を勧めています。近所の方とは散歩時に挨拶をしたり、季節の花の差し入れを頂く等交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年「LAN伴」に協賛しており、スタッフ全員が認知症サポーターとして、認知症のある方への支援方法は、理解できている。しかしまだ地域の方への啓発活動は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隔月に開催されており、サービスの実状やスタッフの資質向上への研修内容、事故やヒヤリハットの報告などを行い、ご意見やアドバイスを受けながらサービス向上に努めている。	運営推進会議は行政・地域・事業所の各メンバーが集まり、隔月毎に開催されています。利用者の状況や事故・ヒヤリハット等入念な説明と更に行事報告が行われ、それに対しコメントやアドバイスが得られてサービスの質の向上に活かされています。	利用者・家族の出席が少ない様です。毎回の運営推進会議議事録を送付し、家族の会議に対する意識向上と参加しやすい工夫も必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からは防災喚起などを受け、アンケートの回答やサービスの現状などを報告している。運営推進会議では、苦慮していることや、困難事例の相談、事故処理の相談などで連携している。	市の担当者とは報告や相談を行い連携を密に図っています。市の方からも指導や書類の様式のアドバイスを頂く等協力関係を築いており、グループホーム連絡協議会では地域包括支援センターや他の事業所との情報交換を行いサービスに役立てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実践し、毎月のミーティングではスタッフで確認しあっている。やむを得ない場合でも、ご家族とカンファレンスを行い、拘束をしないケアを目指している。	年間研修計画に身体拘束禁止と虐待防止の勉強会を盛り込み、職員が常に意識して支援できるよう取り組んでいます。職員のストレス軽減に対して、アンガーマネジメント(感情の管理)の研修を行い、利用者と同様な気持ちで接することができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を行っており、外部の研修会の機会があれば、参加するように努めている。ミーティングや生活場面で、言葉の暴力も含め、虐待行為がないか、確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会はあるが、現在対象者がおらず、十分に理解、運用できるとは言い難い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や要望を聞きながら、事業所からの追加項目も十分説明するようにしている。解約の条件や苦情の対応、損害賠償なども重要視し、納得のいく説明に心がけている。改定には同意承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時や電話などで、生活状況を常に報告して、ご家族様からの要望や苦情も聞き取るようにしている。その都度内容も検討して可能な限り運営に反映するようにしている。	家族の意見・要望は、面会・電話・メールでの連絡時に伺うようにしており、カンファレンスでも家族の意見を反映させています。年1回のアンケート調査での意見等を運営に反映させています。	家族との連携を深めるために、事業所の行事(秋祭り)を利用し、家族会を計画しています。毎月の請求書送付時に利用者の近況報告も添えると、家族との関係も深まり安心と信頼に繋がると思われ期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは代表と個々に面談する機会があり、また毎月のミーティングの議題で、提案要望の項目を設け、職員の意見は代表に伝えられ、可能な限り反映できている。	日常の業務の中で職員同士の戸惑いは、管理者に意見相談を言える環境を作っており、年1回の個人面談では、具体的な意見や要望・アイデアを聞き改善できることは運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表や管理者との個人面談で、労働条件や職場環境を把握し、調整や整備を行っている。研修参加への努力や目標達成の成果などを称え、向上心を持ちながら働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標に応じて、資格取得などのスキルアップ研修の参加を勧め、内部研修や行事の企画運営、実習生の指導など持てる力を十分発揮し、更に向上できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会に加入し、情報交換や研修会でのグループワークで交流を深め、サービスの質の向上やアンガーマネジメントなどで、互いに支えあい、成長できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にご本人との会話を多くして、安心感を持てるように、本人の思いをくみ取りながら、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず、ご家族より困っていることや不安なことを伺い、要望を親身になって聴く機会を作っている。スタッフも挨拶やその日の様子などを伝え、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて専門医や他職種と協議し、ご本人やご家族が納得できるようなサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いができるご利用者様には、家事の調理、掃除、衣類畳み、または花の水やりなどをお願いして、お互いに支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に気軽に面会ができるような環境を整え、食事介助やレクへの参加などの声掛けをして、触れ合える機会を作っている。また外出や外泊で気分転換をお願いして、ともに支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や場所へ外出し、以前暮らししていた地域の方や友人、趣味仲間の方が来所された折には、その方々をイベントに招待するなど、これまでの関係が継続できるように支援している。	家族や友人等が気軽に訪問できるよう雰囲気を作り、再度の面会をお願いしたり、行事の招待等、これまでの関係継続に配慮した支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や日頃の関りなどを把握し、気の合う方の席を近くしたり、会話の機会が持てるように配慮して、ご利用者同士が関われる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、気軽に相談しやすいように、イベントなどのお知らせをしている。また初盆にはお参りを欠かさず、以前の関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションなどで、本人の思いや希望を伺い、ご家族や周囲の方々の協力を得ながら、可能な限り応じれるようにしている。	職員は利用者一人ひとりに対して優しく接し、会話や気付き等から思いや意向を把握しており、「願い事叶えノート」に記入し全員で共有する中で、「同窓生に会いたい」という願いを、家族の協力で叶えられた事例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションやアセスメントシートでこれまでの生活を把握し、本人やご家族からの聞き取りで、「暮らし方シート」を作成している。それをスタッフがケアの参考にできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態やケア内容は記録や申し送り確認し、些細な変化も報告、相談しており、随時ケアに活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングで得た情報はスタッフにも伝達し、定期のミーティングでご利用者様のニーズを確認し、意見を出し合い必要なケアを計画に反映させている。	モニタリングにより援助目標の達成度を評価し、3ヶ月毎の見直しに繋げています。カンファレンスでは、利用者、家族及び医師、地域との関わりも含め意見を取り入れ、介護計画を作成し、職員間で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は詳しく残し、スタッフ間で新たな気づきや工夫を共有しながら、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の来所時や電話などで、生活状況を常に報告して、ご家族様からの要望や苦情も聞き取るようにしている。その都度内容も検討して可能な限り運営に反映するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館活動や地域の行事などを把握し、活動への参加を勧め、送迎や付き添いの支援を行いながら、持てる力を発揮できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を重視して、以前からのかかりつけ医による適切な医療が受けられるようにしており、かかりつけ医がない場合も、専門性やご家族やご本人の医療への考え方などを考慮してアドバイスしている。	本人の、今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診しています。家族が同行出来ない方は、職員が同行し、受診結果は迅速に家族に報告しています。訪問診療による定期健診も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の体調や身体の些細な変化も報告して、適切な看護や医療が受けられるように、互いに協働することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、速やかに情報を提供し、適切な医療を受けながら、かつ早期に退院ができるように入院期間も病院関係者やご家族と密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と段階的に話し合いの場を設け、事業所できることやできないことを説明し、かかりつけ医や訪問看護、福祉用具なども連携して取り組んでいる。	本人・家族の意向を大切に医療機関・職員が連携して早い段階から話し合いの場を設けています。主治医から、在宅医への引き継ぎも行われています。事業所で出来る事を家族に説明し、対応方針の共有が図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で実習したことや訓練で学んだ事、事故報告での反省点を踏まえ、応急手当や初期対応が素早くできるように個人ファイルを作成し緊急時に役立てている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し消防署職員の指導の下、地域の方にも参加して頂いて訓練を行っている。避難場所の確認や緊急連絡体制も整えている。	年2回の訓練が予定され、今年6月に消防署の指導の下、屋間の避難訓練が実施されました。地区の方の協力で、隣接する小学校のグラウンドを避難場所としてお借りして見守りをお願いしました。次回は2月夜間想定で計画しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴や性格などを把握し、認知症があっても人格やプライバシーを尊重して、言葉を選び、気持ちを優先する対応を心掛けている。	定期的に行う接遇研修や毎週行うミーティングを通して、誇りを尊重しプライバシーの確保について学び、日々の支援の中で実践しています。「振り返りノート」により一人ひとりの生活歴・性格を理解し声掛けや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に話しやすい環境を作り、思いや希望や出しやすいようにわかりやすく問いかけ、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、生活習慣を可能な限り考慮し、無理強いすることなく一人一人のペースを大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣の際は自分で衣類を選んで頂き、好みの化粧品や染髪などのおしゃれを楽しんで頂いている。特に外出の際の装飾品や持ち物などの声掛けも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたいものや季節に合ったメニューを考え、食への関心を引き出し、食欲の維持に努め、一緒に調理をして、配膳や後片付けなど役割を楽しんで頂いている。	月2回、お料理レクリエーションが行われ、利用者の声を聞き食べたい物、季節の物を提供しています。職員、利用者が一緒に畑で収穫したかぼちゃ・ゴーヤ等を利用して調理し、配膳・下膳・茶わん拭きを行い楽しい一時を過ごされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状態に合わせて、食事形態や適切な食事量や水分量を提供し、観察や記録を通して必要であれば、栄養補助食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個人に合わせた声掛けや介助をしながら、曜日を決めて義歯洗浄剤での消毒や消臭に努め、歯科医師との連携も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なオムツを選び、誘導や交換時間などを検討し、オムツの無駄使いや失敗による心身の負担を軽減するように努めている。可能な限りトイレでの排泄を勧め、おむつ外しや動作の自立に向けても支援している。	一人ひとりの排泄パターンを理解し、昼間は紙パンツを使用し、出来るだけトイレでの排泄に向け習慣を生かし自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便座に座る習慣をつけ、個々の排便の状態を把握し食事量や水分量、運動量などの調整を行いながら、内服や腹部マッサージなどでも便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定時に声掛け誘導しているが、その日の体調や気分を考慮し、気持ちよく入れる時間に誘導している。入浴が楽しめるように個々の入浴方法や習慣を取り入れ柔軟に対応している。	週3回の入浴になっています。利用者の状態を確認して、気持ちよく入浴出来るよう好みの入浴方法や習慣を大切に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調などを考慮し、日中の休息の時間を設け、寝具や寝衣、部屋の照明や室温など、好みの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、使用方法などが分かるように、ファイルしており些細な変化や疑問も看護師に確認するなど、スタッフは常に意識をもって対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味特技を聞き取り、できることや楽しめること、行きたい場所、食べたいものを見つけ、個別ケアに取り入れることで生活が楽しく、気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や季節の外出レク、近隣の散歩など希望に沿って支援している。ご家族のご協力でスタッフが付き添い、幼馴染や親類の方に会いに行くなど個別な関りができている。	年数回、定期的に外出レクリエーションが行われています。利用者の希望を取り入れて買い物やお寺参り、家族の協力で幼なじみに会いに行く事もあります。畑を見に行き近所の方と挨拶し、ふれあいの時間も出来ています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない利用者でも、外出の際は自らの意思で買い物や支払いができるように支援している。購買車などでの少額の買い物を支援し、楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族や友人との手紙や電話のやり取りで関係性の維持に努め、絵手紙の交換などで、地域の方との交流もできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔で落ち着き快適であるように心がけ、季節の花を飾り、スタッフと協働で取り組んだ作品を展示し、不快感を誘引する音や光にも配慮している。	木がふんだんに使われ、明るいやわらかな空間です。季節の花や、職員との共同作業の壁飾りや置物が飾られ、暖かみのある居心地の良い場所が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は他者との交流を強要することなく、個々の居場所を持てるように配慮しており、気の合うどうしが互いの部屋を行き来するなど自由な居場所を提供できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切な物、好きな物、使い慣れたものを置き、居心地がよく安心して過ごせる空間づくりに努めている。	これまでの生活の中で、使ってきた馴染みの物や家族の写真・洋服を飾り安心して落ち着いた空間作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレに目印をつけ、案内版を置くなど部屋の間違いや排泄での失敗がないようにしている。動線を考慮し、安全に移動や活動ができるように配慮している。		